

病院と地域のつながりを深めよう

広島大学病院 在宅緩和ケア事業研修会

■ 内容

【特別講演】

暮らしの保健室立ち上げと 『生と老と病と死のワークショップ』

川崎市立井田病院 かわさき総合ケアセンター
腫瘍内科／緩和ケア内科

にし ともひろ

西 智弘 先生

地域での緩和ケアを実践していく中で『緩和ケアという言葉を使わずに緩和ケアをすることが注目されている。まるで禅問答のような言葉だが、それをどのように実践していくのか？その実践の場としての暮らしの保健室の立ち上げと運営、そしてそこにある理念についてお話します。

そして、会の後半では、私たちが取り組んでいる「生と老と病と死のワークショップ」について実際に体験してもらいます。ぜひご参加ください！

司会・進行： 林 優美（広島大学病院 緩和ケアチーム医師）

講師紹介：2005年北海道大学卒。室蘭日鋼記念病院で家庭医療を中心に初期研修後、川崎市立井田病院で総合内科／緩和ケアを研修。その後2009年から栃木県立がんセンターにて腫瘍内科を研修。2012年から現職。現在は抗がん剤治療を中心に、緩和ケアチームや在宅診療にも関わる。日本臨床腫瘍学会がん薬物療法専門医。著書に『緩和ケアの壁にぶつかったら読む本』（中外医学社）、『「残された時間」を告げるとき』（青海社）がある。

■ 開催日時

平成30年 2月10日（土） 15:00～17:00

■ 開催場所

広島大学病院 臨床管理棟3階大会議室

■ 対象者

がん診療に携わる医師・看護師・薬剤師等 医療従事者

参加申込は、広島大学病院医療支援グループ/患者支援センターへお知らせください。

メールアドレス: byo-renkei@office.hiroshima-u.ac.jp 電話番号: 082-257-5934

《主催》広島大学病院（都道府県がん診療連携拠点病院）、中国・四国広域がんプロ養成コンソーシアム／広島大学がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン